

平成29年1月16日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	益田県土整備事務所 津和野土木事業所	氏名	吉永 浩
派遣先 団体名	NPO法人 息域スペース ポコ・ア・ポコ		
<p>① 研修の日時 平成28年9月6日(火)～8日(木)、14日(水)、15日(木) 9:00～16:00</p> <p>② 研修の内容</p> <ul style="list-style-type: none">・1日目 自己紹介、共同作業(自主製品の作成)、音楽療法・2日目 共同作業、市内の関係施設や事業所の見学・3日目 ポコ・ア・ポコの成り立ちや、社会福祉等についての説明、共同作業・4日目 共同作業、生け花体験・5日目 共同作業、研修の振り返り <p>息域スペース ポコ・ア・ポコは、ノーマライゼーション(障がいのある人もない人も同じ地域の中で一人の人間として生きていくことが「当たり前の社会」である)の考えを基本理念に、一人ひとりの「生きる」スペースを作るため、地域の中での居場所づくりやQOL(生活の質)を高めることを基本に活動されている。</p> <p>今回の研修では、「障がいを持つ人が地域でどのように生活しているのか」をテーマに、ポコ・ア・ポコでの共同作業(自主製品の作成)や文化活動(音楽療法や生け花)などを通して、利用者さんとの交流や施設の管理者及び職員の方との意見交換により、障がい者福祉に対する理解を深めるとともに、福祉事業の運営の現状を学んだ。</p> <p>○共同作業</p> <p>自主製品である「ふきとりーな」(ウェス製品)などを作成した。数種類ある自主製品はひとつひとつが手作業で作られており、ポコ・ア・ポコの玄関先や、合庁の売店などで1つ100円から販売されている。どれも実用的な製品で、制作する上で特に技術を要しないため、利用者さんにとって気軽に従事できる作業となっている。固定的な売り上げがあることから利用者さんのモチベーションにつながっていると思われるが、材料の入手に苦労されている面もある。とはいうものの、売り上げが目的ではなく、作業を通しての居場所づくりの意味合いが強く、会話を楽しみながらのゆったりとした時間を過ごすことができた。</p> <p>○市内の関係施設や事業所の見学</p> <p>共同作業で作成した製品の納入と合わせ、市内の福祉施設を訪問した。施設の職員さんたちからも温かく受け入れられ、また、外出することで気分転換が図られているようである。気軽に訪問することができる施設・場所が多数あることが、障がい者の生活にとって、非常に重要であると感じられた。</p>			

○文化活動（音楽療法、生け花）

月に数回講師を招き実施されており、研修中に利用者の皆さんと一緒に体験させていただきました。音楽療法は先生とともに音楽に合わせたゲームやリズムを行った。生け花は自分の自由な発想で作成することを重視しつつ、華道の先生からより美しく見えるアドバイスもいただいた。



③ 研修の感想

「障がいを持つ人が地域でどのように生活しているのか」を研修テーマに据えて、5日間お世話になりました。

障がいを持つ人が必ずしも施設に入所あるいは通所しているわけでない。実に多くの方が家庭や地域で日常を送っている。それが当然でありながら、私たちの普段の生活で障がい者との接点がないのはなぜなのか。接点がないのではなく見えていないだけではないのか。これは私だけでなく、我々職員が全員心しておくべきことではないかと思う。目を閉ざしてしまえばそこにある問題さえ見えてこない。つまり、県職員として様々な施策を検討し実施する上で必要なことは、何より「目を閉ざさないこと」、そして「見えないものへの想像力」ではないか。障がいを持つ人の生活が「そこにある」ということをどこまで考えていたかについては、内心忸怩たるものがある。その反省を踏まえて、今後職務に当たりたいと思う。

お忙しい中、我々の研修に時間を割いていただいた職員の皆様、優しく楽しく接していただいた利用者の皆様、本当にありがとうございました。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)